

30年3月分 製材工場の荷動き・価格先行き動向調査 1

1. 調査実施期間 平成30年 3月1日～ 30年3月10日

2. 調査実施方法

全国の国産材製材工場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
3月分の回答企業数は15社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={(「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-(「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

ア. 国産材

(1) 製材用原木荷動き動向 Weight. D. I.

品目		30/3月	4月	5月
入荷動向	スギ	31.3	25.0	18.8
	ヒノキ	37.5	20.0	25.0
	カラマツ	△ 100.0	△ 100.0	△ 100.0
	トドマツ	△ 75.0	△ 25.0	△ 25.0
消費動向	スギ	0.0	6.3	12.5
	ヒノキ	10.0	20.0	30.0
	カラマツ	0.0	0.0	0.0
	トドマツ	△ 25.0	0.0	0.0
在庫動向	スギ	28.6	7.1	0.0
	ヒノキ	30.0	10.0	10.0
	カラマツ	△ 100.0	△ 100.0	△ 100.0
	トドマツ	△ 75.0	△ 25.0	△ 25.0

・スギ、ヒノキ製材用原木の入荷動向は3カ月連続増加。カラマツは3カ月連続大きく減少。トドマツは3カ月連続減少。

・スギの消費動向は3月の横ばいから4月、5月は増加に。カラマツは3カ月連続横ばい推移。トドマツは3月の減少から4月、5月は横ばいに。

・スギの在庫動向3月、4月の増加から5月は横ばいに。カラマツは3カ月連続大きく減少。トドマツは3カ月連続減少。

(2) 製材原木価格動向 Weight. D. I.

品目	30/3月	4月	5月
スギ	△ 6.3	0.0	0.0
ヒノキ	△ 20.0	△ 10.0	△ 10.0
カラマツ	—	—	—
トドマツ	100.0	50.0	0.0

・スギ製材用原木の価格動向はやや弱含み。
・ヒノキは弱含み。
・トドマツは強保合。

モニターからのコメント

(原木荷動き)

- ・大雪により入荷量が激減。受注量は好調だが原木事情により100%対応できない。カラマツ在庫はその日暮らし（北海道）。
- ・トドマツ丸太は6月まで厳しい状況が続く。工場土場在庫は1週間で、山土場在庫は3週間。受注は旺盛だが原木在庫に合わせた生産で生産調整（北海道）。
- ・スギは市場丸太が少ない（関東）。
- ・3月はスギ、ヒノキの仕入れを増やすが、4月からは横ばいか少し減らしていくイメージ。消費は製材量が決まっているためほぼ変わらない。スギは3月で在庫を増やし、4月横ばい、5月から少し減らしていくイメージ。ヒノキは1カ月の製材量がほぼ決まっているのでほぼ横ばい（中部）。
- ・ヒノキは非常に順調に入荷している。スギは若干増えた程度。消費は入荷量の増加に応じて製材量が増えてきた。特に2月は凍結材のため思うように製材できなかったため、一部残業や休日出勤で遅れを取り戻している。在庫は入荷量が消費量を上回っているため増加している（中国）。
- ・天候が回復し、出材も回復傾向。3月末まで工場設備の改良工事のため製材量は少ない（中国）。
- ・寒波もなくなり、時期的に良好なスギ原木の出材が見込まれる（九州）。
- ・天候良好で入荷はやや増加した。消費は通常稼働となる。残業1時間分多め（九州）。

(原木価格)

- ・トドマツは3月より1,000円値上げ。生産できなくなるため、やむを得ずバイオマス、合板と取り合い(北海道)。
- ・スギは各市場の出材量が減っているため、少し上昇しているイメージ。ヒノキはあまり変わらず(中部)。
 - ・ヒノキは出材増加に伴い、高値過ぎた柱口から値下がり(中国)。
- ・スギ、ヒノキとも出材は回復するも、手持ち原木在庫が多くないので価格への影響は小さいと見られる(中国)。
- ・ようやくスギの出材も多量になってきたので、価格が落ち着きそうだ。ただ、B材、C材の下支えもあり、極端な下落はないのでは(九州)。
- ・出荷自好でヒノキ丸太は500~1,000円下落(九州)

30年3月分 製材工場の荷動き・価格先行き動向調査 2

(3) 製材品荷動き動向 Weight. D. I.

品目		30/3月	4月	5月
生産動向	スギ	12.5	12.5	12.5
	ヒノキ	20.0	20.0	30.0
	カラマツ	50.0	50.0	50.0
	トドマツ	△ 25.0	0.0	0.0
出荷動向	スギ	6.3	6.3	12.5
	ヒノキ	10.0	20.0	30.0
	カラマツ	0.0	0.0	0.0
	トドマツ	△ 25.0	0.0	0.0
在庫動向	スギ	6.3	12.5	12.5
	ヒノキ	10.0	0.0	0.0
	カラマツ	0.0	0.0	0.0
	トドマツ	△ 25.0	0.0	0.0

・スギ、ヒノキ製材品の生産動向は3カ月連続増加。カラマツは3カ月連続増加。トドマツは3月の減少から4月、5月は横ばいに。

・スギ、ヒノキの出荷動向は3カ月連続増加。カラマツは3カ月連続横ばい推移。トドマツは3月の減少から4月、5月は横ばいに。

・スギの在庫動向は3カ月連続増加。ヒノキは3月の増加から4月、5月は横ばいに。カラマツは3カ月連続横ばい推移。トドマツは3月の減少から4月、5月は横ばいに。

(4) 製材品出荷価格動向 Weight. D. I.

品目		30/3月	4月	5月
スギ	柱角 KD10.5×3	12.5	△ 6.3	△ 6.3
	柱角 KD12×3	7.1	△ 7.1	△ 7.1
	通し柱 12×6	0.0	0.0	0.0
	桁角	0.0	8.3	8.3
	母屋角	0.0	0.0	0.0
	タルキ	0.0	0.0	0.0
	間柱	6.3	6.3	0.0
	ヌキ	0.0	0.0	0.0
	平割	0.0	△ 8.3	△ 8.3
	ラミナ	16.7	0.0	0.0
	ヒノキ	柱角 KD10.5×3	10.0	0.0
柱角 KD12×3		10.0	0.0	0.0
土台角 10.5×4		10.0	0.0	0.0
土台角 12×4		10.0	0.0	0.0
通し柱 12×6		0.0	0.0	0.0
ラミナ		0.0	0.0	0.0
カラマツ土台角10.5×4	—	—	—	
〃 梱包仕組み板	0.0	50.0	100.0	
〃 ラミナ	0.0	100.0	0.0	
トドマツサンギ	50.0	0.0	0.0	

・スギ製材品の出荷価格動向は柱角KD10.5×3、KD12×3、平角は弱含み。その他の品目は横ばい推移。

・ヒノキは全ての品目横ばい推移。

・カラマツの梱包仕組み板、ラミナは強含み。

・トドマツサンギは値上げ局面。

モニターからのコメント

(製材品荷動)

- ・原木在庫に合わせて生産。新規受注はストップし既存先への安定供給を目指す。生産、即出荷の状況(北海道)。
- ・市場丸太が少ない(関東)。
- ・在庫バランスに応じて生産。出荷は5月決算の得意先の動きが活発。4月以降も少し動く見通し。生産、仕入にて在庫を維持(中部)。
- ・低調であったスギ平角も新年度を控えて需要が出てきた。製品・半製品の在庫は需要期を控えて積み増したいが、中々増えない(中国)。
- ・4月以降増産の見通し。これに伴い出荷は増える見込み。4月以降の本格稼働により、在庫は回復する見込み(中国)。
- ・先月には北陸地方を中心とした積雪による一時的なストップがあったが、全体的にはほぼ横ばいの荷動き。各メーカーも適正な在庫を持てる所も出てきたようだが、まだ不足感は引っ張っている(九州)。
- ・天候良好、出荷良好につきヒノキ増産。残業あり。出荷は順調に推移している(九州)。
- ・スギの相場は下がったようだが、下げて売るくらいなら在庫して需要期に備える(九州)。

(製材品出荷価格動向)

- ・カラマツ梱包仕組み板、ラミナは値上げにより販売価格は上昇（北海道）。
- ・トドマツサンギは値上げ局面。価格もそうだが安定供給優先（北海道）。
- ・スギ製品は強含みではあるが、価格上昇には至らず。ヒノキの取扱いは少ない（中部）。
- ・スギ10.5×3m角は依然として品不足が続く。ヒノキ10.5角は特に堅調な需要（中国）。
- ・スギ、ヒノキ同様に保合が続くのではないか（中国）。
- ・ヒノキ製材品価格は横ばい。上昇を期待するが5,000円/m³値上げ（九州）。

30年3月分

製材工場の荷動き・価格先行き動向調査 3

イ. 外材

(1) 製材用原木の荷動き動向 Weight. D. I.

品目		30/3月	4月	5月
仕入動向	米マツ丸太	100.0	0.0	0.0
	NZラジアータ	0.0	△ 50.0	△ 50.0
	北洋エゾマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ原板	—	—	—
消費動向	米マツ丸太	100.0	△ 50.0	0.0
	NZラジアータ	0.0	△ 50.0	△ 50.0
	北洋エゾマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ原板	—	—	—
在庫動向	米マツ丸太	0.0	0.0	0.0
	NZラジアータ	0.0	△ 50.0	△ 50.0
	北洋エゾマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ原板	—	—	—

・米マツ丸太製材用原木の仕入動向は3月の増加から4月、5月は横ばいに。消費動向は3月の増加から4月、5月は減少に。在庫動向は3カ月連続横ばい推移。
 ・NZラジアータ製材用原木の仕入、消費、在庫動向は3月の横ばいから4月、5月は減少に。

(2) 製材用原木等購入価格動向 Weight. D. I.

品目	30/3月	4月	5月
米マツ丸太	△ 50.0	0.0	0.0
NZラジアータ丸太	0.0	50.0	50.0
北洋エゾマツ丸太	—	—	—
北洋アカマツ丸太	—	—	—
北洋アカマツ原板	—	—	—

・米マツ丸太の価格動向は弱含み。
 ・NZラジアータ丸太の価格動向は強含み。

モニターからのコメント

(原木荷動)

- ・スギ丸太にシフト中にて輸入量を減らしている。

(原木価格動向)

- ・FOB、FRTともに上昇中。

30年3月分

製材工場の荷動き・価格先行き動向調査 4

(3) 製材品の荷動き動向 Weight. D. I.

品目		30/3月	4月	5月
生産動向	米マツ製材品	100.0	△ 50.0	0.0
	NZラジアータ製材品	0.0	△ 50.0	△ 50.0
	北洋エゾマツ製材品	—	—	—
	北洋アカマツ製材品	—	—	—
出荷動向	米マツ製材品	100.0	50.0	0.0
	NZラジアータ製材品	0.0	△ 50.0	△ 50.0
	北洋エゾマツ製材品	—	—	—
	北洋アカマツ製材品	—	—	—
在庫動向	米マツ製材品	50.0	0.0	0.0
	NZラジアータ製材品	0.0	△ 50.0	△ 50.0
	北洋エゾマツ製材品	—	—	—
	北洋アカマツ製材品	—	—	—

・米マツ製材品の生産動向は3月の増加から4月は減少、5月は横ばいに。出荷動向は3月、4月の増加から5月は横ばいに。在庫動向は3月の増加から4月、5月は減少に。
 ・NZラジアータ製材品の生産、消費、在庫動向は3月の横ばいから4月、5月は減少に。

(4) 製材品の出荷価格動向 Weight. D. I.

品目		30/3月	4月	5月
米マツ平角		0.0	0.0	0.0
米マツ正角		50.0	0.0	0.0
米マツ小割		50.0	0.0	0.0
北洋エゾマツタルキ		—	—	—
北洋アカマツタルキ		—	—	—
NZ梱包材(割板)		0.0	0.0	0.0
NZ梱包材(割角)		0.0	0.0	0.0
NZ土木用材		0.0	0.0	0.0
その他		—	—	—

・米マツ平角の出荷価格動向は3カ月連続横ばい推移。正角、小割はやや強含み。
 ・NZ製材品の出荷価格動向は梱包材(割板、割角)、土木用材とも3カ月連続横ばい推移。

モニターからのコメント

(製材品の荷動き)

・NZ材の注文は変わらないが、意図的にスギの生産量を増やしているため、NZ材の出荷量も減少している。

(製材品出荷価格動向)

・1月にNZ材を値上げした後は現状維持の状況。